

所属・資格 英文学科・教授

申請者氏名 閑田 朋子

研究課題		英国 19 世紀の小説・ジャーナリズムに関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	英国 19 世紀の小説家の著作（フィクションに限らずジャーナルに寄稿した記事を含む）や、同時代の定期刊行物のあり方を、当時の社会的コンテクストおよびその他の社会的コンテクストのなかで、読み解くことを目的とする。その際に、発表媒体の違い（紙面で発表されたものを原作として後の時代に別媒体で発表した場合等を含む）や、刊行物と読者層との関係性に注目して、個々の作品・事例について考察を行う。
	研究の結果	英国 19 世紀のジャーナリズムについては、ユニテリアン急進派の女性ジャーナリストに焦点をおいて研究を進めた。イライザ・ミーティヤードについてはその伝記『ジョサイア・ウエッジウッドの人生』について研究を行い、彼女がウエッジウッド社創始者を「大工業の英雄」として描いたことが分かった。また、このミーティヤードを同時期の女性ジャーナリストハリエット・マーティノーと共に扱い、そのキャリアにおけるユニテリアン急進派を中心としてジャーナリストのネットワークの重要性を指摘した。同時期の小説については、ベンジャミン・ディズレイリの『コニングズビー』の第 5 巻 5 章を翻訳した。 また 19 世紀終わりごろに日本に滞在した英国出身のジャーナリストジョン・レディ・ブラックが日本の見世物に関連して日本語で出版した記事を調べ、これが西洋の目を気にする日本に影響を及ぼした可能性を指摘した。
	研究の考察・反省	ミーティヤードが出版したウエッジウッドの伝記は、何をもってその人物を伝記に残すに値するかと考えるかというヴィクトリア朝の価値観と密接に結びついている。また当時の伝記は、現代の伝記とは定義自体が異なっている。ミーティヤードの厳密な調査に基づいて書かれた『ウエッジウッドの人生』は現代で言えば研究書に近いものである。ミーティヤードとマーティノーについては、二人は同じようにユニテリアンの知的土壌でジャーナリストとしての資質を育み、ユニテリアンのネットワークを利用してキャリアを積むが、その作家としての資質や政治的傾向、さらにはデビュー時期とユニテリアン急進派による大衆向上雑誌の隆盛期の関係性から道を分かつことになった。二人の女性ジャーナリストを比較することで、当時のジャーナリズムの一角に光が当たったものかと考えるが、これから口頭発表を論文にするにあたり、より正確な考察が必要である。また、ブラックの記事の影響については、ブラック自身の言説に寄る部分が多く、可能性としての指摘に留まった。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p><研究発表></p> <p>閑田朋子「ミーティヤードが描いた「大工業の英雄」 ジョサイア・ウエッジウッド」欧米言語文化学会 第 14 回年次大会 連続シンポジウム「歴史上の人物は文学の中でいかに扱われているか」 2022 年 9 月 4 日 オンライン (Zoom) 開催</p> <p>閑田朋子「Harriet Martineau と Eliza Meteyard : ジャーナルと交差する人間関係」日本ヴィクトリア朝文化研究学会 第 22 回全国大会 シンポジウム「19 世紀出版文化とユニテリアン・ネットワーク : Harriet Martineau を中心として」 2022 年 11 月 19 日 於早稲田大学戸山キャンパス 36 号館</p>	

<p>研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者</p>	<p><研究成果物></p> <p>論文 閑田朋子「英語文化圏から見た浅草と浅草から見た西洋 ―明治期の見世物と文明開化―」 英米文化学会『英米文化』第 53 号（2023 年 3 月）：印刷中</p> <p><u>閑田朋子</u>・石岡丈昇・大場博幸・尾崎知伸・北原鉄朗・高 榮蘭・小林和歌子・十代 健・周 彪・ シュミット マリア ガブリエラ・シュヴァルツ トーマス・谷 聖一・任 海 「文理学部の教育における国際化：ICT(情報通信技術)を利用した教授法開発構築のための 基礎的・実践的研究」日本大学文理学部人文科学研究所『研究紀要』第 103 号（2023 年 2 月）：印刷中</p> <p>翻訳 閑田朋子「ベンジャミン・ディズレイリ作『コニングズビー』第 5 巻 5 章」欧米言語文化学 会 <i>Fortuna</i> 第 34 号（2023 年 3 月）：印刷中</p>
--	---